

平成 22 年 6 月 17 日現在

研究種目：若手研究 B

研究期間：2007～2009

課題番号：19720098

研究課題名（和文）マンデビ語の記述及び形態統語論的研究

研究課題名（英文） Descriptive and Morpho-syntactic Study of Mandebikha

研究代表者

西田 文信（NISHIDA FUMINOBU）

麗澤大学・外国語学部・助教

研究者番号：40364905

研究成果の概要（和文）：

本研究は、チベット・ビルマ系言語に属するマンデビ語(Mangdebiklia：シナ=チベット語族、チベット=ビルマ語派、ヒマラヤ語支、チベット=キナウリ語群、東チベット諸語、Nyenkha、Henkha、Lap、Mangsdekhaとも称される)の記述的研究を行うものである。主として関連文献の収集及び現地調査を中心に行った。関連文献については、日本国内で刊行されたものはほぼ全て収集することができた。欧文文献についても同様である。現地調査に関しては、ブータン王国において話される少数民族言語について、現地調査を中心とした資料収集をおこない、記述言語学的研究を進めた。ブータン渡航時にはブータン国内の関係部署への訪問をおこなった。現地調査は各年度に一回ずつ、ブータン王国トンサ県及びワンディポジャン県においておこなった。主たる研究対象であるマンデビ語ツァンカ方言については、語彙調査のほか文法調査や自然発話の音声資料を収集した。このほか、周辺で話される諸言語の言語状況に関する調査もおこなった。今回の言語調査で、マンデビ語にはトンサ県でおこなわれている 12 方言とワンディポジャン県でおこなわれている 5 方言に分類できることが判明した。また、現地調査で得た一次資料をもとに、マンデビ語トンサ方言に関する記述言語学的並びに社会言語学的立場からの研究を進めた。このほか、周辺で話されるケン語シムガン方言についても語彙調査をおこなった。マンデビ語の形態統語論は他のブータン諸言語とパラレルな現象が見られると言われているが動詞形態論においては非常に面白い現象も見いだされるため、慎重な分析が必要である。しかし、今のところ資料は十分ではなく、さらに多くの資料を収集する必要がある。談話資料を収集する必要性から、民話の収集も行った。これは、格標識が談話の中で果たす役割や、格標識の省略などを分析する上で必要な資料であると考えたためであり、今後も分析を継続する予定である。

研究成果の概要（英文）：

Mangdebi kha, is a language of the East Bodish group spoken in the Mangde river basin, on the eastern slopes of the Black Mountains of west central Bhutan and also in adjacent parts of the western Black Mountains. The language is also spoken in several villages to the east of the Mangdechu between Trongsa and Zh'ämgaŋ. The language is also known by the names 'Nyenkha, Henkha and a slew of loconyms whereby the language is named after one of the villages where it is spoken. The Mangde speaking area is bounded to the west by Dzongkha, to the east by the Bumthang language, to the north by the Lakha speaking area, and to the south by the Kheng and Black Mountain Mönpa languages.

I could work on this language under the auspices of the Dzongkha Development Commission of the Royal Government of Bhutan toward the completion of a grammar of Mangde. Initial results of the three fieldworks on the Mande spoken in Tshangkha, Tronsa include phonetics, phonology, morpho-syntax, and sociolinguistic aspects of the language as well as folk tales.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	480,000	3,180,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：Mangdebikha、チベット・ヒマラヤ諸語、チベット・ビルマ系言語、ブータン王国、マンデビ語、形態統語論、社会言語学、記述言語学

1. 研究開始当初の背景

ブータン王国の諸言語は、シナ=チベット語族の最古層を反映していると考えられ、民族移動の観点からしても学術的価値は極めて高いにもかかわらず、纏まった記録や記述のある言語はむしろ例外である。十分な情報を欠いた(あるいは皆無の)言語の殆どがいま急速に消滅にむかっており、生きた言語を有効に研究できる残余期間はごく限られている。遅きに失することなく、調査と研究を進める必要がある。それも、一刻の猶予なく取り組みをはじめると必要と責務がある。私は、将来的にシナ=チベット語族の比較言語学的研究(音韻・形態・統語面の再建)を目指しておりその準備段階としてシナ=チベット諸語の記述的研究に従事してきているが、上述の George van Driem 教授の薦めもあり、平成 19 年度から上記二言語の言語学的研究に従事することを決定した。

2. 研究の目的

本研究ではブータンの諸言語の中でもその重要性にもかかわらずこれまで記述が全くなされていない、Chutobikha 地区の Phobjikha 村付近で話されているマンデビ語(Mangdebi kha: シナ=チベット語族、チベット=ビルマ語派、ヒマラヤ語支、チベット=キナウリ語群、東チベット諸語、Nyenkha、Henkha、Lap、Mangdekha と

も称される)について、音韻・語彙・文法の各レベルについてフィールドワーク行い正確な記述を行うことを目的とする。また、言語接触等、当該言語の話されている社会と文化的背景との関連において記述し、話者人口、言語分布を確定し、言語動態論的視座に立脚した語彙分析の研究を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究の具体的な進め方は以下の如くである：

- [1] 既に刊行された周辺諸言語の調査記録の蒐集と整備
- [2] 現地調査(フィールドワーク)
- [3] 資料の整理、分析、記述
- [4] 成果(語彙集・文法)の公刊とデータベース化

4. 研究成果

研究の成果は、私がデータの蓄積を進めているデータベースに集約させブータン社会への還元を帰すとともに(基礎語彙集を作成し現地に配布する予定である)、チベットビルマ諸語研究の新たな研究の中心的基盤として展開させていきたい。将来的には、言語保持に必要な教育環境の整備(文字作り、教材、

教員養成、その他)に重要な貢献となるべく研究を進めてゆく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

西田文信、"ブータンの言語政策-現状と課題-" 言語政策学会 10. 14/16 (2008), 1

西田文信: "マンデビ語初期調査報告" 人文研究 38. 63/73 (2009), 1

[学会発表](計2件)

西田文信: "マンデビ語の概要" チベット=ビルマ言語学研究会. (20080728). 京都大学

西田文信: "ブータンの言語政策-現状と課題-" 日本言語政策学会. (20081108). 奈良教育大学

6. 研究組織

(1)研究代表者

西田 文信 (NISHIDA FUMINOBU)

麗澤大学・外国語学部・助教

研究者番号: 40364905

(2)研究分担者

無

(3)連携研究者

無